

介護ロボットHALの導入

社会福祉法人神友会 みくらの里
ユニットリーダー 増田 祐二
介護主任 黒田 秀宗

みくらの里

【概要】

静岡県下田市吉佐美1086
開設：2005（平成17）年2月25日
建物：RC3階建て
定員：特養80名、短期20名、通所30名
介護度：4.08（H29.7.1現在）
職員数：79名（介護職60名、うち介護福祉士35名）（H29.7.1現在）



【主な取り組み】

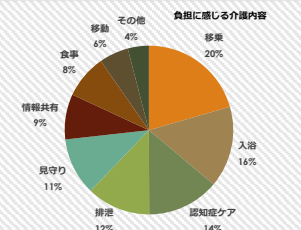
- 2006（平成18）年3月 ISO9001を取得
- 2006（平成18）年11月 認知症ケアとして、くもん学習療法を開始
- 2013（平成25）年4月 県内2番目の「リハビリ-実地研修施設」として認定

2

介護分野におけるロボット活用の背景

介護現場の課題

- 2010年から2025年までの15年間で、65歳以上の高齢者は約709万人増加。社会全体の高齢化率（総人口に占める高齢者の割合）が23%から30%に大幅上昇。団塊の世代が一挙に高齢者になり、2012～2014年には毎年100万人以上高齢者が増加。
- 介護職員の数も2012年の170万人から、2025年には約250万人が必要。



厚生労働省が平成23年度に実施した220の介護施設管理者・スタッフに対し、介護種類別毎の負担に感じる割合を調査

出典：福祉用具・介護ロボット実用化支援事業報告書（厚生労働省）

介護分野におけるロボット活用の背景

- 平成24年6月 経済産業省・厚生労働省合同検討会発足
- 検討会にて重点分野の原案を作成し、各種団体に意見照会
- 平成24年11月 両省より「ロボット技術の介護利用における重点分野」を公表
- 負担に感じる介護の種類のうち、ロボット技術を活用して解決を図るため、重点分野の決定
 - ①移乗介助（装着型）②移乗介助（非装着型）③移乗支援（屋外）④排泄支援
 - ⑤認知症の方の見守り（施設）の5分野

出典：福祉用具・介護ロボット実用化支援事業報告書（厚生労働省）

介護ロボットは、その機能・用途によって以下の3つのカテゴリーに分類

- 介護支援者型
利用者のベッド移動、車いすへの移乗、入浴・排泄などの介護業務を支援する介護ロボット及び機器

- 自立支援型
歩行・リハビリ・食事・読書など、介護される側の自立を支援する介護ロボット

- コミュニケーション・メンタルケア型
セラピー効果、見守りなどをしてくれる介護ロボット

<入浴リフト>



<移乗リフト>



介護ロボット導入に向けて

<活動目的>

ロボット等の次世代技術を学び、介護職の負担軽減について研究を行う事で、様々な年代の働きやすい環境作りを行う

<平成28年度活動計画>

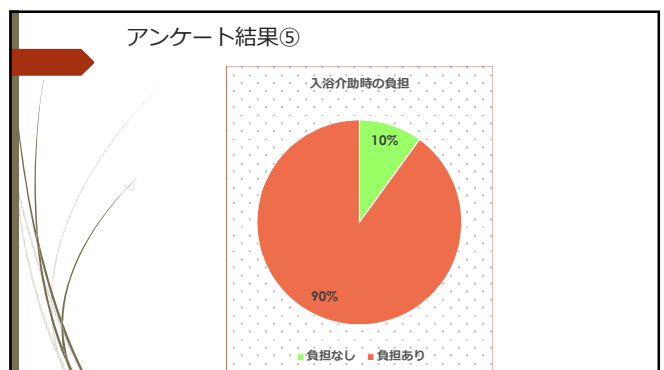
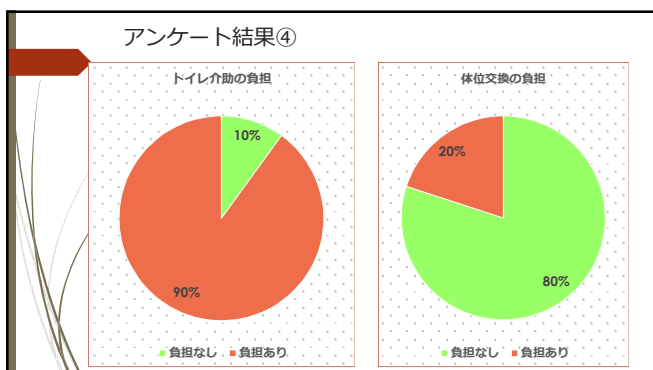
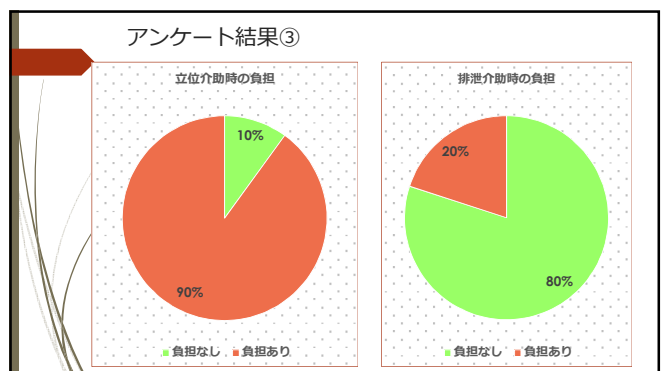
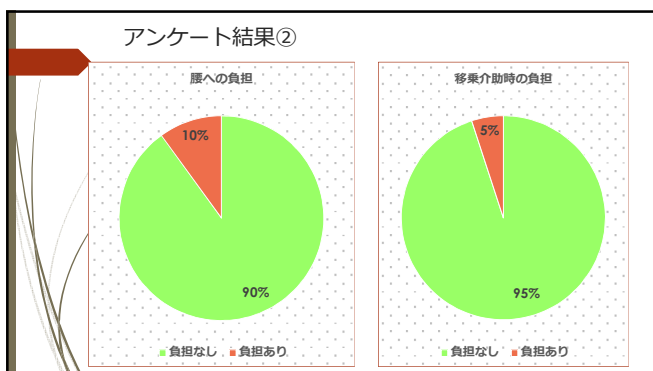
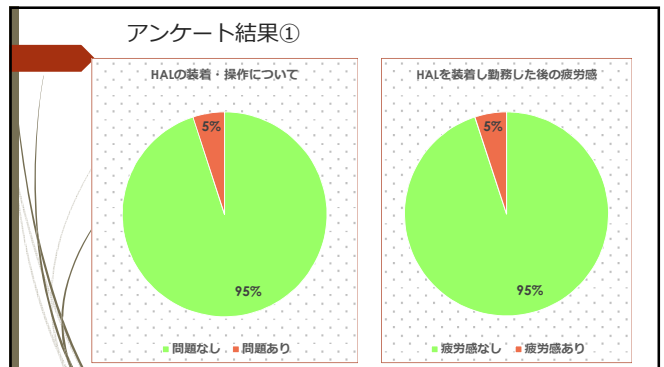
委員会の設立⇒導入に向けての勉強会⇒導入する機器の選定⇒運用の開始

<介護ロボット見学>

平成28年6月14日 静岡県 説明会参加
平成28年6月16日 みくらの里 説明会参加

<HAL使用者研修>

平成28年11月30日 合同説明会参加
平成28年12月2日 HAL納品
平成28年12月7日 運用に向けての対象ユニット選定及び勉強会
平成29年1月10日 運用開始

[illegible]

今後の課題

- 昨年度より初めて介護側の負担軽減を目的とした機器を導入した。まずは機器に慣れる事を目的として実施し、徐々に使用方法やアシストするタイミング等に関して把握できている状況である。今後はどの場面での使用が有効的なのかをアンケート結果を基に有効的な使用方法を模索していく。
- 今後、介護サービスに対するニーズは増大する事が予測され、その質が問われる。むしろ介護サービスの質向上のためのツール、あるいはスタッフのスキルアップのツールとして積極活用する視点が必要である。

ご清聴ありがとうございました。